

# 大明教育 実践の評価 <集計結果と考察>

評価のねらい

- ◆ 2学期の実践の評価を踏まえ、3学期の課題を明らかにする。
- ◆ 小中連携及び学校・家庭・地域の連携・協働の場を探る。

<評価方法について>

◇ A-よい B-ふつう C-改善が必要 の3段階で評価

◇ 評価者の職種によっては評価できない項目もありますので、その場合は空欄にしないで斜め線を記入してください。

◇ 評価欄に斜線がある項目は2回目に評価してください。

◇ 「気づいたこと」には、率直なご意見を記述してください。特にC評価については改善方法等を具体的に書いてください。

評 価 項 目	評 価		
	A	B	C
<b>1. 教育目標について</b>			
① 学校教育目標・指導重点は適切だったか。 ○あいさつのできる ○そうじのできる ○授業に集中できる ○落ち着いて生活できる	14	7	0
② 学校教育目標が学年学級経営や教科指導に具現化されているか。	13	6	0
③ 学校教育目標や経営方針が児童や父母に理解されるよう配慮されているか。	13	6	0
〈気づいたこと〉 ・いろいろ目標や守ることが多く、指導する方も児童も、大変だと感じている。			
〈考察〉 ・本校の教育目標「自ら考え 活動する 心豊かな子ども」は知・徳・体のバランスのとれた子ども、すなわち「生きる力」を身に付けた子どもの姿であり、変化の激しい社会に生きていく子どもたちに必要な力である。今後とも、この目標の具現化のために教育活動を進めていく。 ・設問①「学校教育目標・指導重点は適切だったか。」について、前期はA評価17名、B評価2名だった。児童に認識はされているし内容も適切だが、児童の実態に即した指導内容が増えていってしまったために、やや徹底しきれない面が生じた。			
〈改善策1〉 ・学年、学級単位で、明確なスモールステップを設けて、取り組む。PDCAを行い、向上している部分を児童に認識させる。			
<b>2. 経営・組織</b>			
① 学校運営に関する連絡・調整はスムーズか。	13	7	0
② 職員会議は学校運営に適切に機能しているか。	15	5	0
③ 学年打ち合わせが十分できているか。	16	2	0
④ 研究主題は、学校課題に合った適切な内容であったか。	16	4	0
〈考察〉 ・4つの設問とも、前期より良好な結果となっている。 ・設問③「学年打合せが十分にできているか。」が十分なされているという結果であった。			
〈改善策2〉 ・先生方はそれぞれがいろいろな業務を持ちながら、教育活動に取り組んでいる。その中で、連絡・調整や学年の打合せ等の時間が勤務時間内で取ることが難しい状況であり、勤務時間を過ぎてから打合せを始めることも少なくない現状である。今後とも、会議や終礼等の効率化・短縮化に取り組んでいく。			
<b>3. 教育課程 (1) 全般</b>			
① 教育課程に本校の特色は生かされているか。	13	7	0
<b>(2) 各教科・総合的な学習</b>			
② 教科指導は、教材研究・事前の準備等を行い、わかる・楽しい授業に心がけたか。	12	8	0
③ 創意工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てることができたか。	8	8	0
④ 各教科の授業時数は確保できているか。	16	4	0
<b>(3) 道徳</b>			
⑤ 教科や他領域との関連に考慮がはられているか。	10	3	0
⑥ 道徳的实践・道徳性などが高められていると思うか。	6	14	0
<b>(4) 特別活動 (学級活動・児童会活動)</b>			
⑦ 学級活動は、自主的・自発的に運営されたか	5	9	0
⑧ 児童会活動は、自主的・自発的に運営されたか。	11	9	0

### (5) 学校行事

⑨ 学校行事は適切に計画的に実施されているか。	15	6	0
⑩ 学校行事は、学校生活に活力を与えるよう計画運営されているか。	15	6	0
〈気がついたこと〉 ・畑と田んぼがなくなったことによる教育課程の再編成は、学年だけでなく全体で確認する必要がある。			
〈考察〉 ・全体的には、前期とほぼ同じ数値の結果であった。その中で、設問④について、大きな向上がみられた。特に2学期は、大きな学校行事が多かったが、そんな中でも、授業をしっかりと実施した努力がみられた。 ・前期に設問⑥と設問⑦に1つずつあったC評価がなくなった。			
〈改善策3〉 ・校内研究の推進が、日々の授業の向上につながっていると考えられる。実質的な研究内容は、ほぼ終えているが、研究のための研究ではなく、授業のための研究であるということを、以後も意識し続けていきたい。			
<b>4. 学級経営・生徒指導</b>			
① 児童との心のふれあいを深め、豊かな人間関係を築く学級づくりに取り組めたか。	10	5	0
② 職員が共通理解をもち生徒指導を推進しているか。	13	7	0
③ 支援委員会を中心とした支援は適切に行われたか。	15	5	0
〈気がついたこと〉 ・職員会議の行事予定で確認された下校時刻が守られていない。各学年で守らせる前提で放送委員会の下校放送がなくなっても良いと話し合っていたのに、残念だ。安全パトロールの方々にも申し訳ないと思う。 ・支援が必要な児童が多く、手がまわらないのが現実だと思う。			
〈考察〉 ・設問①と設問③では数値の向上がみられた。逆に設問②の数値は低下した。 ・個々のケースに対応するため、組織的に取り組むことができていた。			
〈改善策4〉 ・対応の難しいケースについて、その状況を把握し、複数で組織的に対応できるよう、コーディネーターを中心にして、校内支援委員会を更に活用できるとよい。 ・生徒指導や児童の豊かな人間関係を築く学級づくりにはQ-Uを活用して、低・中・高のブロック単位を基本に組織的に行った。今後、これらの共有や良い方向に進んだ学級の事例研究なども行っていきたい。			
<b>5. 家庭・地域社会との連携</b>			
① 授業参観・懇談会は適切だったか。(回数・内容・出席率)	13	7	0
② PTA活動は目標達成のため計画的に展開されているか。	11	9	0
③ 児童の登下校時において安全が確保されているか。	8	12	0
④ 学校応援団を有効に活用できたか。	11	9	0
〈気がついたこと〉 ・11月は、保護者の負担が多かったと感じる(文化発表会・道徳公開・すぐ個別懇談)。			
〈考察〉 ・全体的に、前期と同じような数値であった。 ・今学期の学校応援団活用については、本の読み聞かせなど毎週行っていたりしている方や、毎年5年生のコメ作りに協力していただいている方など定期に来ていただいている方以外に、ミシン学習や版画の補助で協力をいただくことができた。 ・プールの監視や低学年の校外学習の付き添いなど、学校応援団としてに保護者のボランティアをお願いすることができて助かった。			
〈改善策5〉 ・地域ふれあい道徳については、来年度は6月7日に実施を予定している。			
<b>6. その他</b>			
① 子どもたちは、あいさつができていたか。	3	17	1
② 給食中の過ごし方やマナーに問題はないか。	6	11	0
③ 清掃指導にしっかり取り組めたか。	11	10	0
④ 読書意欲を高めるような指導ができていたか。	7	11	0
⑤ 保健指導がしっかりできていたか。	7	10	0
〈気がついたこと〉 ・具体的行動目標に沿って、「掃除に集中して取り組む」意識が、前期に比べ浸透している。			

**〈考察〉**

- ・子どもたちのあいさつや給食中のマナーについて課題があると感じている割合が高い。一方、あいさつができるようになってきたと感じている先生もいた。
- ・保護者アンケートでも基本的な生活習慣について若干低くなってきたが、教職員も子どもたちが基本的な生活習慣を身につけていくことの大切さを感じている。
- ・読書活動の推進、保健指導などができていたと感じている割合が高い。

**〈改善策6〉**

- ・子どもたちのあいさつについては、気持ちの良いあいさつができる子ども・あいさつが苦手な子どもがおり、どの子どもにあいさつを交わしたかによっても印象が違ってくることが考えられる。児童会の取組や大人が率先して気持ちの良いあいさつの声かけをしていく取組を継続していく。
- ・給食の時間おしゃべりに夢中になり決められた時間で食べきれないとか、周りに迷惑をかけてしまうことがないよう、マナーを守って楽しい時間としていきたい。